

2017 年度実施「学生による授業評価アンケート」自由記述欄の意見・質問等への回答
(英米言語文化学科)

1. はじめに

授業評価アンケートにご協力いただき有難うございました。英米言語文化学科では、みなさんからの意見を踏まえて、教育環境を整え授業の質を向上させるよう努力して参ります。

2. 学科への要望と回答

①「英語のみを使う授業を増やしてほしい。」という意見について

昨年度実施した学科アンケートでは、日英両語を使用した授業を希望する学生がかなりいることがわかりました。英語のみの授業を希望している学生の割合は、科目によって異なり、**Oral Communication** 関係科目、共通英語関係科目、ネイティブスピーカーの先生が担当する科目、教職関係科目等で希望者の割合が高くなっているということも明らかになりました。

このようなアンケート結果を踏まえ、今年度はプレイスメントテストによるクラス分けを行う対象科目を拡大し、より円滑な英語使用を促しています。来年度は今年度の課題を基に更に改善を図っていく予定です。また、2007 年度から新カリキュラムをスタートさせ、**Oral Communication I・II**、**Oral Communication III**、**Discussion Skills** 等、会話能力を高めるクラスを増設しています。このように、授業の中で英語を使用する機会は着実に増えてきていると考えていますが、英語のみを使用するクラスの増加に向けては、学生のニーズやクラス分け方法等を考慮しながら今後も積極的かつ慎重に取り組んでいく予定です。

それから、英語のみを使用する授業の実現に向けて、学生の皆さんにも協力して欲しいことがあります。まず、4 年間を見据えた授業登録計画を作成するという事です。先を見据えた計画により、ほぼ英語のみを使用する授業をかなり受講することができます。もう一つは、積極的に英語を使う姿勢をどの授業においても持って欲しいということです。英語を専攻する学生一人一人が目的意識を持って常に英語使おうという姿勢を示せば全体の雰囲気は劇的に変わると思っています。

②「取りたい授業が取れるようにしてほしい。」という意見について

使用教室の大きさや、科目の内容によって、どうしても人数制限が必要になるクラスもあります。抽選の場合は、上の学年の学生を優先し、卒業までには履修できるよう可能な限り配慮していますが、結果として皆さんの希望通りにならない場合もありますので、それに関してはご理解下さい。指定クラスにする理由についてですが、特に語学や 1 年次・2 年次のゼミでは、効果的な学習環境を維持するために、クラスによって人数の偏りが無いように配慮しています。また、指定クラスにすることで、仲の良い者同士だけでなく、なるべくたくさんの教員や学生と出会い、様々な刺激にしてもらいたいという意図もあります。ただ、クラスによって内容や評価に大きな差が出ないよう、これからも担当教員の間で十分な話し合いを持つよう心がけた

と思います。また、同じ時間帯に複数の科目が開設されないよう開講時間帯の分散化も継続して行っていく予定です。

それから、①でも述べましたが、4年間を見据えた時間割を作成することにより、計画的に希望する科目を登録することができます。専門科目は複数の学年で受講が可能になるように開講されているので、計画的に授業を登録していくことが重要になります。

それでも授業登録に関して解決できない問題等があれば、遠慮なくアカデミックアドバイザーや学科長に相談して下さい。皆さんが取りたい科目、興味のある科目を出来る限り履修できるよう今後とも改善に努めていきたいと思っています。

③「協定校や留学支援を増やしてほしい」という意見について

英米言語文化学科の皆さんの中には、留学を希望する学生が多数います。ですから、学科または大学全体として単位変換や奨学金付与等、私費留学に比べメリットの多い協定校への留学事業の充実に向けてきました。その結果、協定校の数は着実に増え、学生の皆さんの選択肢も広がっていると考えています。本学協定校派遣事業の特徴は、国内外に協定校があるということ、国外に関しては英語圏に限らず、アジア・ヨーロッパの多くの大学と協定を結んでいるということです。このような協定校へ留学した学生が4年で卒業できるよう環境整備にも努めています。例えば、昨年度より、協定校へ留学生を対象にした卒論Ⅰの授業を後期にも開講していることが挙げられます。それにより、4年後期に復学した学生は専門演習Ⅱ・卒論Ⅰ・Ⅱを同時履修し4年間で卒業することが可能になっています。

一方で、留学費用の支援や英語圏の協定校に関しては、英米の学生のニーズに十分応えられていない側面もあります。オーストラリアのマッコーリー大学や北アイルランドのアルスター大学との交換留学が、本学への留学希望者を確保できないため継続が不可能となりました。現在はバンクーバーアイランド大学と南ユタ大学への派遣留学のみとなっています。派遣留学は交換留学に比べコストがかかるため、留学費用の支援も限定的となっています。しかしながら、英米の学生の強い要望を鑑み、今後もグローバル教育支援センターと連携しながら、協定校開拓に向け努力していきたいと考えています。

3. 終わりに

授業アンケートには、みなさんの意見が率直に述べられており、本学および本学科に対しての様々な意見・要望を知ることができました。有難うございます。「本学科に入学して良かった」と一人でも多くの学生かが思えるように、より良い教育環境や質の高い授業を提供できるよう努めて参ります。